

第6章 推進体制と進行管理

この章では、戦略の取組を推進していくための推進体制と、確実に実行していくための進行管理の計画についてまとめています。

6.1 推進体制

この戦略では、各主体の役割を明確にし、相互に連携・協働しながら戦略を推進していく体制を構築します（図 6.1-1 参照）。基本方針は以下の通りとします。

- ・ 環境共生課と博物館、動植物園、環境総合センターが連携して、自然環境・市民活動情報に関する情報の拠点を整備します。
- ・ 市が自然環境に関する情報の拠点となり、市や市民、市民活動団体、事業者等がそれぞれの役割を意識し、相互に連携・協働しながら、戦略を推進します。
- ・ 熊本市の生物多様性は、市の周辺地域とのつながりの中で維持されており、周辺地域との連携も重要となります。そのため、周辺地域とのつながりやめぐみを認識し、地元有識者や大学・研究機関、国・県・市町村等の行政機関とも連携・協働しながら、戦略を推進します。
- ・ 生物多様性の保全や活用について、情報の共有や取組の推進、課題の対応を図っていくための、新たな組織（「熊本市生物多様性推進会議」「庁内推進会議」）を設置して、戦略の進行管理を行います。

※「熊本市生物多様性推進会議」の役割

- ・ 戦略の実施状況、実施内容のチェック結果について評価を行い、改善方法の提案を行います。
- ・ 各主体間で取組の推進や課題の対応に関する情報交換を行います。

※「庁内推進会議」の役割

- ・ 戦略の各取組の実施状況、実施内容のチェックを行います。
- ・ 生物多様性推進会議での評価、提案をもとに、取組の改善・見直しを行います。
- ・ 庁内で戦略の共通認識を図り、取組に関する情報交換を行います。

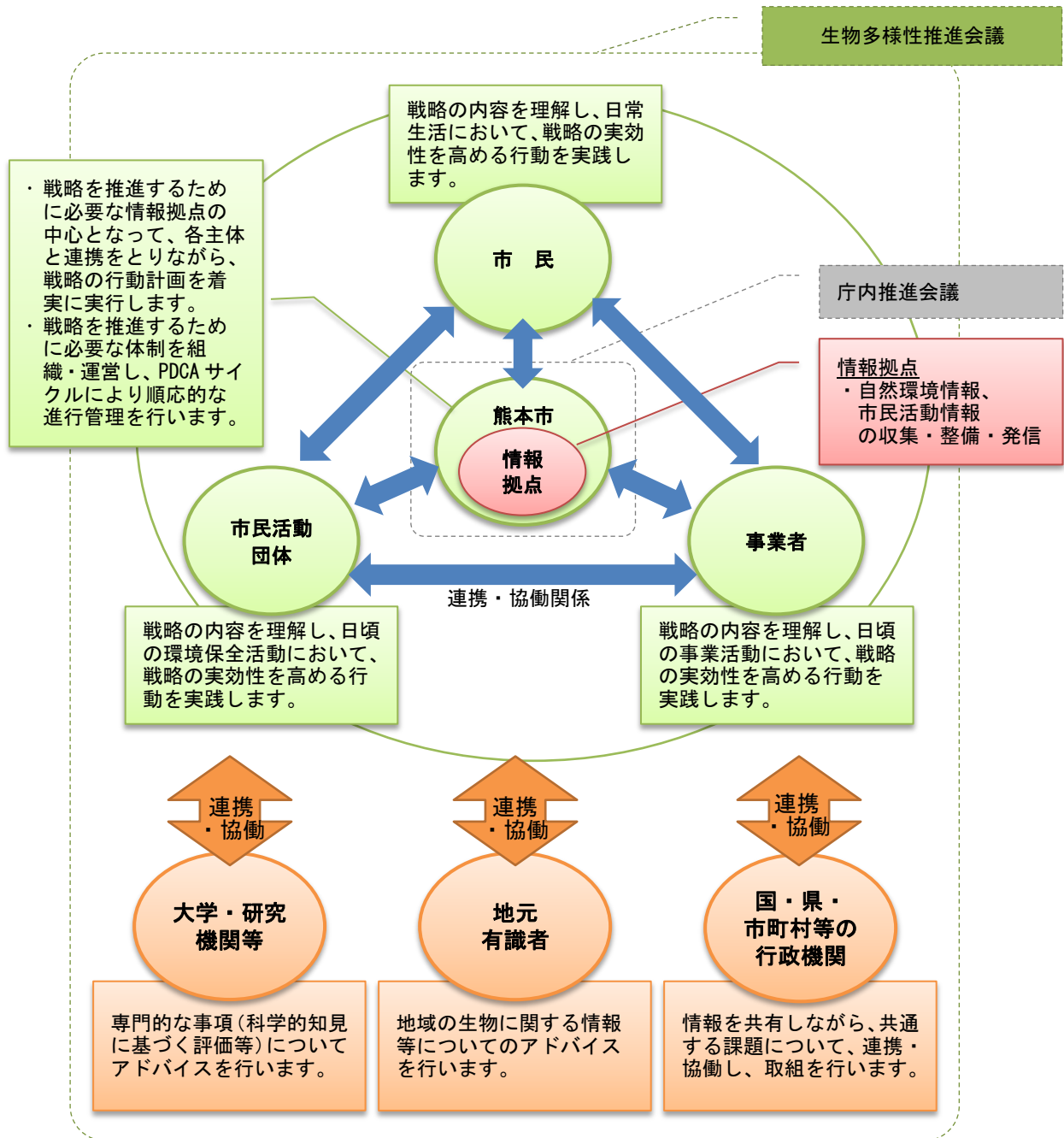


図 6.1-1 推進体制のイメージ

6.2 進行管理

この戦略においては、PDCA サイクルによる進行管理を行い、生物多様性推進会議、庁内推進会議によって取組の評価を行い、年度ごとにその結果を公表します(図 6.2-1 参照)。想定通りに進まない事態に対応できるような、順応的な見直しや改善を必要に応じて行います。

目標年次となる平成 32 年(2020 年)には、進捗状況及び課題を再評価し、次期戦略を検討します(図 6.2-2 参照)。次期戦略において可能な限り数値目標を盛り込むことを視野に、進行管理にあたっては、取組の実施状況を踏まえつつ、現状分析と将来的な目標の設定を検討します。

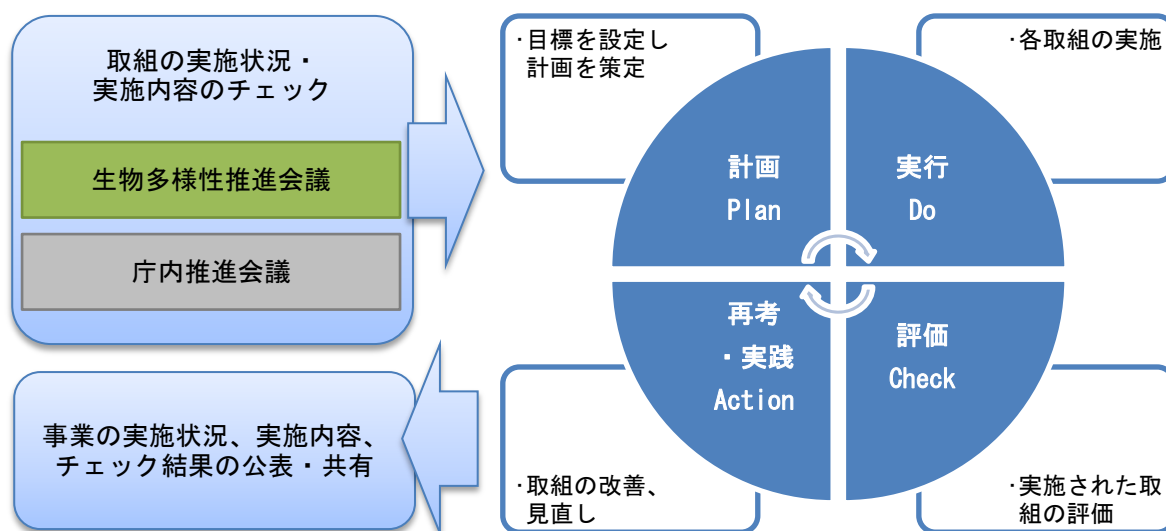


図 6.2-1 戦略の評価及び改定の手法

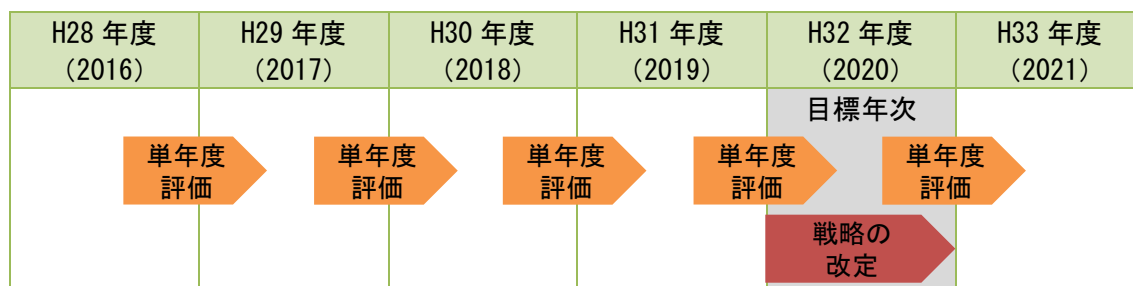


図 6.2-2 戦略の評価及び改定の時期